

## 血液内科

### 1. 後期研修の特徴

- 1) 日本血液学会認定研修施設である。
- 2) 成人に発症するあらゆる血液疾患の診療を担当している。主な対象疾患は、造血障害（再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、特発性血小板減少性紫斑病）と造血器腫瘍（悪性リンパ腫、各種の白血病、多発性骨髄腫、骨髄増殖性疾患）である。これらの疾患の診断と治療に加えて、自家造血幹細胞移植を併用した高用量化学療法やプラズマフェレーシスなどの先進的治療も行っている。

### 2. 後期研修のための指導医

- 1) 吉田 彌太郎 顧問 日本血液学会認定血液専門医・指導医、  
日本輸血学会認定医
- 2) 桂田 達也 部長 日本血液学会認定血液専門医

### 3. 後期研修により取得可能な専門医・認定医

- 1) 日本内科学会認定内科医
- 2) 日本血液学会認定血液専門医

### 4. プログラム

#### ■ GIO

血液内科専門医として、患者中心のチーム医療を実践するために、内科の総合臨床能力を基礎とした血液内科の臨床能力を習得する。

#### ■ SBOs

- 1) 急性白血病の診断と治療ができる。
- 2) 悪性リンパ腫の診断と治療ができる。
- 3) 造血障害（再生不良性貧血、骨髄異形成症候群など）の診断と治療ができる。
- 4) 造血幹細胞移植の適応が判断できる。
- 5) 緊急処置を要する病態（高カルシウム血症、上大静脈症候群、腫瘍崩壊症候群など）を理解し、適切に対処できる。

### 5. LS

- 1) On the job training (OJT)が主体である。
- 2) 主治医として血液疾患の診療に従事する。
- 3) 臨床血液学関連学会で症例報告または臨床研究の成果を発表する。
- 4) 臨床血液学関連学術誌に論文発表する。

<前期内科系コース>

- ① 関連各科のローテーションが望ましい。

<後期内科系コース>

- ① 1年次：末梢血・骨髄像の読み方、リンパ節標本の観察、画像診断などを症例に応じて指導し、血液疾患の診断の実際を体得する。
- ② 2年次以降：治療方針を自分自身で策定し、標準治療を正しく実施する能力を習得させる。造血幹細胞移植の適応や、骨髄・臍帯血バンクの事業についても理解させる。血液専門医としての研修と平行して、薬物療法に関する基礎的知識の習得、薬物療法に伴う副作用に対する対処、緩和医療の理解など、臨床腫瘍内科医としての研修も指導する。

■ EV

- 1) カンファレンスや回診などで指導医の評価を受ける。

6. 大学医局との関連

本人の希望によって、血液疾患を標榜する大学医局に紹介することができる。

7. 将来の進路

- 1) 当院血液内科の常勤医として勤務する。
- 2) 各大学の大学院（臨床医学講座、基礎医学講座）への進学や、血液疾患を含む腫瘍専門施設（がんセンターなど）での研修に進路を変更してもよい。